

**1 学校教育目標**

○ 基礎基本を身につけ、自ら進んで学ぶ生徒    ○ 心身ともに健康で、思いやりのある生徒    ○ お互いに協力しあい、ともに向上する生徒

**2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像**

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人が明るく元気に活動し、個性や能力を伸ばせる学校</li> <li>・教職員が信頼し合い高め合うことにより、組織的に機能する学校</li> <li>・保護者や地域から信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文武両道を目指し、何事にも意欲的に取り組む生徒</li> <li>・人の気持ちを考えることができ、感性豊かで豊かな人間性を磨く生徒</li> <li>・自らの生き方に自信をもち、自己実現に向けて日々努力する生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の生徒を人間として尊重し、良さや可能性を引き出す教師</li> <li>・指導力向上を目指し、常に自己研鑽に励む教師</li> <li>・保護者や地域から信頼され、協働して教育活動を行う教師</li> </ul>

**3 学校の現状及び前年度の成果と課題**

【学校の現状】

落ち着いた学習環境の下で、活発に教育活動が行われている。明るく素直な生徒が多く、授業や学校行事、部活動等に熱心に取り組んでいる。教員は、互いに協働する意識が高く、意欲的に職務に取り組んでいる。保護者や地域は、学校の教育活動や行事等の取組に大変協力的である。

【前年度の成果と課題】

- 〈成果〉・学習コンテストや各種検定の実施により学習意欲の向上が図られた。・家庭学習帳の取組を通して生徒に家庭学習の習慣化が身についた。  
 ・いじめの未然防止を図るとともに、早期発見、早期解決を心がけた。・CSやPTA、そして生徒共に校門前での朝の挨拶運動に取り組んだ。  
 ・CS運営委員と生徒及び教員との意見交換で教育活動について考えることができた。
- 〈課題〉・「分かる授業」を目指し、常に指導内容や授業形態の改善に努める。 ・きめ細かな不登校対応を推進する。  
 ・CSとして、地域の教育力を生かした教育活動をより積極的に行う。

**4 重点的な取組事項**

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	自己肯定感の育成	○	○	○	○	○
3	保護者・地域との積極的な連携によるコミュニティ・スクール活動の推進	○	○	○	○	○

## 5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学習意欲の向上と 確かな学力の定着		区学力調査各教科 65%以上 定着度確認テストで 正答率 各教科 65%以上		区学力調査平均 60.9% 定着度確認テスト 国語 66.5% 数学 52.0% 英語 49.5%		区学力調査の通過率は数学の平均が 66.8% で目標を超えていたが、国語・英語では到達 できなかった。定着度確認テストは国語では 目標を達成できたが、残り2教科で達成でき なかった。数学は昨年比に上昇している が、英語はほぼ横這いである。生徒の課題を 分析し、次年度へと繋げていく。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・ 継	アクション プラン	対象・ 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	「分かる 授業」の 実践	全教員	年間	「足立スタンダード」を 活用した授業を行う。 授業力向上を目指し、副 校長を中心に組織的にOJT に取り組む。 教師だけでなく生徒のタ ブレットやA Iドリルの 活用を図り、わかりやす い授業の実践を進める。	生徒の授業評 価(わかりや すさ・ICT活 用)	年度末 生徒アンケ ート 肯定的回答 共に90%以上	肯定的回答 わかりやすさ 9教科平均90.2% 学習用タブレット活用 9教科平均81.6%	・肯定的回答が95.5%か ら81.1%と教科によりバ ラツキがある。しかし、相 対的に向上している。ま た、生徒の学習用タブレ ットの活用が目標を達成 するには至らなかったが、進 んできていると考えられ る。今後も組織的に授業改 善に努め、一人一台端末や A Iドリルの活用を図り ながら分かる授業の実践 に取り組んでいく。	○
2 継続	朝読書	全生徒	毎週 月～金 (除朝 礼時) 始業前 15分	読書習慣をつけ読解力の 向上を図るため、読書を行 う。	読書量調査	読了賞(年間 10冊以上)生 徒40%以上	読了賞生徒15.4%	昨年度に比べて大きく減 少した。朝読書として取り 組んでいるのに残念な結 果である。教室の蔵書を増 加させるなど取組を行っ ていく。	△

3 継続	放課後補充教室 自主学習教室	抽出生徒 国語 数学 英語  希望生徒 全教科	毎週月 火、木 放課後 60分  毎週金 放課後 90分	学習コンテストや各教科 担任が作成した確認テ スト等を行い、不合格生徒 に放課後 ICT 機器などを 使用して補習を行う。 自主学習教室では、教員 や学生ボランティアの指 導とともに生徒同士の教 え合い学習を導入する。	区調査問題を 活用した、定 着度確認テ スト  自主学習教室 参加生徒数	定着度確認テ ストで、 正答率各教科 65%以上  参加生徒数 前年度増 (272名以上)	1年生 国語 68.4 % 数学 54.7 % 英語 50.1 % 2年生 国語 64.6 % 数学 49.3 % 英語 49.0 %  延べ参加生徒数 290名で 昨年度より増加している。	・目標を達成できたのは 1つのみで、次年度に向け て基礎的な内容の定着を 一層図っていく必要がある。 ただ、経年で見ていく と少なからず向上はして いる。 ・自主学習教室は、だいた い定着が図られてきており 、学習ボランティアの活用 も図られてきているので 今後も継続していく。	△
4 継続	学習コン テスト	全生徒 国語 社会 数学 理科 英語	年4回 5月 国語 9月 英語 12月 社理 1月 数学	全校で集中的に取り組 む。朝補習でプリント学 習に取り組みさせるなど事 前学習を充実させる。 80点以上を合格とし、不 合格生徒には再テストや 放課後指導を行い、理解 が不十分な内容の補充を 行う。	コンテスト結 果	各コンテスト において 合格生徒 80%以上 優秀賞 (90点以上) 60%以上 満点賞 30%以上	各コンテスト平均 合格生徒 59.1% 優秀賞 47.6% 満点賞 22.5%	・コンテストによって、バ ラツキが見られた。目標を クリアするには至らなかつ た。 ・次年度も合格点に達し なかつた生徒には、補充教 室等で指導を継続してい く。 ・事前事後指導を、より主 体的に取り組ませるよう 工夫し、傾向や結果を分析 し、授業で活用していく。	●
5 継続	サマース クール	希望生徒 数学 英語等  数学特訓 1年生 正答率 50%未満	夏休み 期間中 7日間 各日 50 分×3	教科担任を中心に全教員 で、基礎基本の定着を図 り、理解が不十分な内容 の補充、克服を行う。 数学特訓は、1対数名程 度の個別指導を行う。	数学特訓 評価テスト  他は、 参加生徒数	指導初日と最 終日に行う評 価テスト 正答率 20%上 昇 参加生徒数 前年度増	述べ参加人数 3年 89名 2年 306名 1年 384名 計 779名 評価テストは 実施できなかった。	各学年ともに 3 教科 で実施した。今後は 下位層だけではなく 中間層の向上に取り 組めるような形式も 考えていく。	◎
6 継続	土曜スク ール	全学年 希望生徒  国語 数学 英語	年9回	漢字、数学、英語検定に おいて、目標とする級へ の合格を目指す。 教科担任と地域講師で、 市販の問題集等を利用し 模擬試験を行い、学力の 向上を図る。	漢字検定 数学検定 英語検定	検定合格率 75%以上  参加生徒数 前年度増 (61名以上)	検定合格率 漢字検定 56.3% 数学検定 77.8% 英語検定 60.0% 参加生徒数 61名→ 56名	・検定は年 3 回の予定を 数学検定以外は実施し、そ れに向けての土曜スクールも 年 8 回実施できた。しか し、今年度は参加者が少な く、次年度はもっと生徒に 周知を図り参加人数を増 やしていきたい。	

7 継続	小中連携 活動の推 進	全教員 希望生徒	年間 夏季休 業中	研究授業を主体とした指 導法改善のための研修会 を行う。 小学校のサマースクール に、生徒を教師役として 派遣する。	合同研修会  生徒派遣数	研修会開催 6回以上  生徒派遣数 20名以上	研究授業を小中でそれぞ れ1回ずつ実施  サマースクール派遣は新 型コロナウイルス感染症 拡大により中止	・4回予定していた研究授 業を実施することができ た。次年度も同様に計画 し、実施できる範囲で行っ ていく。 ・サマースクールの生徒 派遣は早く再開させたい。	○
8 新規	学びの環 境整備	全教員	年間	特別支援教育コーディネ ーターを中心として、す べての生徒にとって「分 かる」を実感できる教室 環境の整備	教室環境チェ ックシート	チェック年3 回 チェックシ ート8割クリア	チェックシート 第1回 92.0% 第2回 93.0% 第3回 97.0% 平均 94.0%	目標としていた数値 は達成することができ た。普段から教員 も意識的に気にする ようになってきたの で、今後は生徒の意 識も調査していきたい。	◎

重点的な取組事項－2		自己肯定感の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
何事にも主体的、積極的に取り組む 生徒の育成		生徒の学校生活評価で、取組項目の肯 定の回答を90%以上にする。	生徒の学校生活での満足度は 94.8%であった。できることを出来 る範囲で取り組めた成果であると 考える。	次年度も成果が実感で きる取組を増やしてい く。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ボランティア活動の 充実	生徒の学校生活評価「ボ ランティア活動に積極 的に参加している」項 目の肯定的回答を90% 以上にする。	・「親子ボランティア」を中心 に、ボランティア活動へ積極 的に取り組ませる。 ・事前指導や講演会により意 識を高めさせ、ボランティア リーダーを育成する。 ・個人による自主的なボラン ティア活動を推進する。	できるボランティアを増やすこと ができ、「ボランティア活動に積極 的に参加している」項目の肯定的 回答が55.2%と昨年に比べ8.0ポ イント減少した。	今年度は1年生の参加 が少なく、肯定的回答 も28.2%でとても低か った。次年度はボラン ティア活動への取組に 対しての周知活動及び 参加数の向上に努め る。	△

挨拶運動の充実	生徒の学校生活評価「自分から挨拶をしている」項目の肯定的回答を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会・学年委員を中心に、ほぼ毎日、木は保護者、毎月15日は地域が参加して、朝の挨拶運動を実施する。</li> <li>・小中合同の朝の挨拶運動を実施する。</li> </ul>	保護者や地域の方が参加してのあいさつ運動も定期的に行うことができた。また、今年度は小中連携によるあいさつ運動も実施できた。しかし、「自分から挨拶をしている」という肯定的な回答も86.5%と目標は達成できなかった。	今後も積極的に挨拶ができる環境を保護者・地域の方の力を借りながら教職員・生徒とともに作り上げていく。	○
きめ細かな不登校対応の推進	30日以上欠席生徒数を前年度より減らす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SCやSSW、関係諸機関との連携を積極的に図り、全教員で情報を共有しながら組織的に対応する。</li> </ul>	今年度は欠席30日以上の子供数が27名と多少減少した。また、学校に全く来られない生徒は9名であるが、担任による家庭訪問や関係機関との連携によって学校との接点がない生徒はおらず、この関係性は今後も続けていく。	今後も、教員が生徒と丁寧に関わり合い、家庭との連携を密に行っていく。関係諸機関との連携も積極的に図っていく。	△
「いじめ0」運動の推進	生徒による「いじめ防止のキャンペーン」を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会本部や専門委員会を主体に、いじめ防止について取り組ませ、いじめ0を目指す。</li> </ul>	生徒会本部役員や学年委員、生活委員を主体の「思いやりキャンペーン」を掲示物主体で実施した。	「いじめ0」を目指して、工夫を重ねながら今後も取組を継続する。	△
生徒の実態把握	「こころの声」を毎月実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こころの声」で生徒の変容を把握する。学年の教員を中心に全教員で供覧し、情報の共有化を図る。</li> </ul>	「こころの声」は毎月朝礼後に実施した。全教員で供覧し、情報の共有化を図った。	生徒の実態を把握し、生徒との意思疎通を図るため、今後も活用していく。	○

重点的な取組事項－3		保護者・地域との積極的な連携によるコミュニティ・スクール活動の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域からより一層信頼される学校づくり		保護者・地域の学校評価で、「学校への満足度」の肯定的回答を90%以上にする。	学校評価での「学校への満足度」の肯定的回答は、91.2%であった。	より一層、信頼される学校づくりに努める。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
CS「協力し隊」活動の推進	地域参観日を月2回以上実施する。教育活動支援を発展させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域による授業参観の取組を継続する。課題を共有し、教育活動に生かしていく。</li> <li>・書写指導補助等、教科内容を踏まえた取組の充実を図る。</li> </ul>	地域参観日も実施することができて地域の方に学校を知っていただく機会がもてて良かった。書写指導補助は、講師の先生の都合が合わずお手伝いいただくことができなかった。	地域の方と連携を密に図りながらの教育活動支援の発展が今後の課題である。	○
意見交換会の実施	CS運営委員と生徒及び教員との意見交換会を各1回実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や教員の声地域に直接届けるとともに、地域から学校への要望を直接聞く会を実施する。</li> <li>・課題を共有しながら今後の教育活動を考えることにより、連携を深める。</li> </ul>	コロナ禍で意見交換会を実施することはできなかった。しかし、生徒・教職員にアンケートを実施し、CS会議で話し合い、課題を共有することができた。お互いに意見を出し合うことで、連携が深まった。	出された意見を十分に検討し、学校環境整備など実現できるところは今後の教育活動に取り入れていく。	△
地域でのボランティア活動の活性化	地域ボランティアへの延べ参加数を100名以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事や避難所運営訓練等へのボランティア生徒を積極的に募り、地域との交流を図らせる。</li> <li>・地域の住人の一人として自覚させ、自分の役割について考えさせる。</li> </ul>	コロナ禍で地域の行事が延期や中止となってしまった。ただ、そのよう中、ボランティアの呼びかけに応じて参加してくれた生徒は24名で、実施することができた。	コロナが終息した暁には地域行事に積極的に生徒がお手伝いできる環境を整備し、生徒の自己有用感の向上を図っていく。	△

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項－1 学力向上

##### 【課題】

- 英語においては英文作成に課題がある。特に正しい語順、英単語の定着が低いと考えられる。
- 数学において既習事項の定着率が低く、基礎的な問題が解けず、数学に苦手意識をもっている生徒が多いと感じられる。
- ◎文章を正しく読み取る力が全体的に不足しており、読み取りができない故に文章作成力も低いと考えられる。

##### 【対策】

- 授業内で英作文作成の時間を毎時間確保する。ワークシートだけでなく、A I ドリルを使い、正しい語順への並べ替えなど簡単に取り組めるところから始め、英作文作成へと進めていく。
- 補習や家庭学習等ではできるだけ多くの英文に触れる機会を設定し、並べ替えを中心とした内容で定着を図る。
- 單元ごとの単語テストやスペリングコンテストを実施し、定着度に応じた課題を設定していく。
- 授業内での帯活動でA I ドリルの活用し、既習事項の定着を図る。
- 課題提供をプリントだけではなく、A I ドリルも併用し、生徒一人一人に合った問題演習に取り組みせ、学習意欲の向上を図る。
- 補習で苦手意識をもつ生徒を参加させ、基礎的内容の定着を図り、苦手意識を減少させる。
- ◎教科書以外の文章に触れる機会である朝読書の取組は継続する。また、学級文庫等の充実も図書館担当を中心に行っていく。
- ◎様々なジャンルの文章を生徒に提示し、正しく読み取る活動を多く取り入れる。
- ◎漢字や古典単語等、定期的に小テストを実施し、基礎的知識の定着を図る。

#### 重点的な取組事項－2 自己肯定感の育成

- ・「本校の特色はボランティア活動と挨拶」と答える生徒が多く、実際、ボランティア活動は活発で、多くの生徒から気持ちのよい挨拶が返ってくる。しかし、自ら積極的にという点で課題が残る。今後、自ら積極的に取り組む意識を育てるとともに、完全実施とはいかなかった地域でのボランティア活動の募集等もポスター等を作成し、積極的に行い、達成感や成就感を味わわせるための工夫に取り組む。
- ・不登校対応については、関係諸機関との連携や別室登校等、個に応じた対応で一定の効果があった。今後も、生徒と丁寧に関わり合い、家庭との連携を密に行う。
- ・生徒による「いじめ防止キャンペーン」を中心にいじめの未然防止を図るとともに、早期発見、早期解決を心がけた。また、「ライブ」や「こころの声」を活用して生徒の実態把握に努め、教員間で生徒理解と情報の共有化を図ることができた。

#### 重点的な取組事項－3 保護者・地域との積極的な連携によるコミュニティ・スクール活動の推進

- ・コロナ禍の中で実施できる範囲でのCSの活動を行うことができた。3年ぶりとなる「ハピフェス」も地域・保護者の皆様のお力をお借りすことで実施することができた、ぜひ次年度はできるだけ多くの取組を模索しながら、教育活動支援を発展させていく。
- ・土曜スクールをほぼ実施できたのはCS・PTAの方々のご協力の賜物であります。今後はもっと生徒への周知を図り参加生徒を増やしていく。
- ・学校でのボランティア活動へ参加した生徒は、積極的に取り組むことができた。参加する意義を理解させ、さらには地域のボランティア情報も積極的に周知し、参加生徒を増やしていく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者や地域の皆様には、日頃から本校へ様々なご尽力をいただき、心から感謝いたしております。今年度の学校行事では少人数ではありますが、生徒の活躍をご覧いただく機会が設けられました。そして、生徒への励ましの言葉等をいただき、とても良かったです。次年度はさらに多くの方に学校生活をご覧いただけるよう願っております。

本校は、これまでの良き伝統を継承するとともに、教育活動をさらに充実、発展させ、新しい伝統を創造していきたいと日々取り組んでいます。

具体的には、「君たち一人一人が主人公」のスローガンのもと、全教職員が丸丸となって連携、協力し、生徒が主体的に活躍する場面を意図的に設ける等、「一人一人

の生徒を大切にし、きめ細やかな温かみのある指導」を行うことにより、生徒全員が「第五中学校に通ってよかった」、保護者の皆様が「第五中学校に通わせてよかった」と実感できる学校づくりに励んでいます。

コミュニティ・スクールとしての指定も受けており、地域との連携をさらに強化し、地域力を活用した教育活動の活性化を図っていきたいと考えています。生徒の健全育成のためには、保護者・地域・学校の連携が何より大切だと考えています。今後とも、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

### **(3) その他（学校教育活動全般について）**

・今年度掲げた重点的な取組事項について、実施できたものと急遽中止となってしまったものがありました。しかし、出来る範囲の中で出来ることを教職員・生徒と一緒に実施することができた。

・学習指導では、「分かる授業」の実践を目指し、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われているが、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、日々授業改善に取り組むことが必要である。各学力調査や定期考査等の分析を行うことで生徒のつまずきを確認し、補充教室や学習コンテスト、サマースクール、家庭学習の取組等で学力の向上を継続して図っていく。一人1台端末の活用を図り、紙媒体等での指導に加え、A Iドリル等の活用を図り、アナログとデジタルを融合させて基礎学力の定着を継続して図っていく。

・生活指導では、教員間での共通理解、同一步調による、力に頼らない指導の徹底を図るとともに、生徒の良さを認め、ボランティア活動や挨拶運動を推進して生徒の活躍の場を設け、自己肯定感を高める取組を行っている。学校行事や生徒会活動、部活動等で、生徒は意欲的に活動していた。ぜひ、地域等の行事が多く開催され、そこに生徒が参加できるようになり、地域の役に立てる生徒を増やして、生徒の自己有用感も向上させていきたい。また、不登校生徒を減らすことも課題である。

・次年度も、今年度の成果と課題を基に、教育活動の改善を組織的に行っていく。今後も教員の指導力向上を図り、小中連携を推進し、保護者・地域・学校が一体となり、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、学力向上や自己肯定感の育成を進めていく。